

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

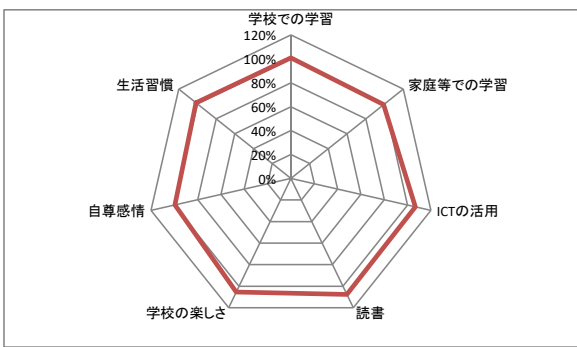
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率は、全国平均正答率を上回っている。特に「読むこと」や「我が国の言語文化に関すること」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正率が6%以上高い。しかし、「短答式」あるいは「記述式」の問題において、平均正答率は、全国平均正答率を上回っているものの他の問題に比べると全国平均正答率と同程度である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題	
	努力が必要な問題	文章に関する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「データの活用」の領域の問題の正答率は、全国を上回っている。しかし、「変化と関係」の領域の問題に課題がある。また、「短答式」あるいは「記述式」の問題に無回答が多い。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題	
	努力が必要な問題	示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギーを柱とする領域」や「生命を柱とする領域」の問題の正答率は、全国と同程度である。しかし、「粒子を柱とする領域」の問題に課題がある。「短答式」あるいは「記述式」の問題に無回答が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ問題	
	努力が必要な問題	「器具の名称」を問う問題 「光の性質」を問う問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・国語科、算数科、理科の学習に対して、「好きですか」の問いに肯定的な回答をした児童が全国の割合を下回っている。また、国語科、算数科の学習に対して「大切だと思いますか」の問いに肯定的な回答をした児童は全国と同程度であるが、理科の学習に対しては、全国を下回っている。 ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の問いに対して、肯定的な回答をした児童が全国の割合を高まっていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科の学習において、児童が、学習することの必要性や有用性を実感できるように、身の回りの事象と関連させながら、考えることができるような授業づくりに努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・日々の学級指導の中で、家庭での学習習慣について、継続的に指導していく。また、学級・学年通信や学級懇談会等を通して、本校の取組や課題を保護者に周知するとともに、啓発を行う。
- ・当該学年に応じた家庭学習の仕方・時間を継続的に指導する。